

平成29年度における外国人等に向けた熱中症等関連情報の情報発信の計画について（案）

I. 趣 旨

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は7月から9月の暑さが厳しい時期に開催され、世界各国から我が国の夏の暑さに慣れていない外国人等が多く訪れる。また、2016年の訪日外国人旅行者数は2,404万人（うち、7月～9月は626万人）に達し、「明日の日本を支える観光ビジョン」においては2020年に4,000万人とすることが目標とされている。このため、熱中症に対する予防方法や発症時の対応などの情報を外国人等に分かりやすく発信し、早期に対処できるようにすることが重要である。

熱中症等関連情報については、これまで外国語による情報発信が少なかったため、昨年度より関係業界・団体等の協力を得て情報発信を強化してきた。今年度は、昨年度の取組に加え、特に訪日中の外国人等に向けた情報を充実させることとする。

なお、次年度は、今年度の成果を踏まえ、改善点や追加方策等について検討し適宜見直す。

II. 情報発信の内容

日本の夏の気候は、気温が高いだけでなく、湿度が高く蒸し暑いといった特徴があるため、暑さに慣れていない外国人等が適切に予防及び対処できるよう主に以下の内容について情報を発信する。

- ・ 気象情報（日本の夏の気候の特徴）
 気温、湿度、暑さ指数（WBGT）等
- ・ 熱中症の一般的知識
 熱中症の症状・リスク要因（環境・からだ・行動）等
- ・ 熱中症の予防・対処方法
 日傘・帽子や冷却グッズの利用、こまめな休憩（クールスポットの紹介等を含む）、水分・塩分補給、応急処置等
- ・ 救急車・医療機関に関する情報
 救急車の要請方法、医療機関の情報・受診方法等

※上記の内容をまとめた訪日外国人向けリーフレットの作成。

[環境省、消防庁、厚生労働省]

Ⅲ. 情報発信の具体的取組

1. 主に訪日前の外国人向け情報発信

- (1) 在外公館や日本政府観光局（J N T O）等において、ウェブサイトやSNS等を通じた発信。[外務省、観光庁]
- (2) 海外向けメディア等への情報提供。
 - ①外国語ラジオ放送による発信。[内閣官房]
 - ②海外向け政府広報による発信。[環境省]

2. 主に訪日中の外国人向け情報発信

- (1) 環境省熱中症予防情報サイトによる暑さ指数（WBGT）の発信。[環境省]
- (2) 災害時情報提供アプリによる発信。[観光庁]
 - ①プッシュ型による熱中症情報の発信。
 - ②熱中症についての解説や外国人受入可能な医療機関情報の発信。
- (3) 各種観光データを提供している民間ウェブサイトによる発信。
[経済産業省]
 - ①暑さ指数（WBGT）情報の追加。
 - ②飲料水の自動販売機情報の追加の検討。
- (4) 熱中症対策に取り組んでいる自治体や民間団体と連携した情報発信。
[環境省]
 - ①地域でのイベントにおける発信。
 - ②航空機内における動画での発信。
- (5) 宿泊、スポーツ、観光、商業、飲食、交通関係施設など、外国人旅行者が利用する施設等において、関係業界団体等を通じたリーフレットの配布等による発信。[環境省、厚生労働省、スポーツ庁、観光庁、経済産業省、農林水産省、国土交通省、東京都]
- (6) 気象庁ウェブサイトによる高温注意情報等の発信。[気象庁]
- (7) 救急車利用ガイドや熱中症予防広報メッセージを作成し、消防庁ウェブサイトに掲載するとともに、自治体等での活用を依頼。[消防庁]
- (8) 東京都ウェブサイトによる熱中症の予防や対処方法等の発信及び都内各所における熱中症予防ポスターの掲示。[東京都]
- (9) 電話による外国語対応が可能な医療機関等の案内。[東京都]
- (10) 区市町村の実施する熱中症対策に関する外国人住民・観光客向けの普及啓発等事業への支援。[東京都]

(11) 大会公式ウェブサイト等を通じた効果的な情報発信についての更なる検討。[組織委員会]

※言語については英語を基本とし、必要に応じて他の言語で情報発信を行う。

IV. 実施期間

6月～9月